

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO

10

October 2017
No.776



おやこ木工教室(五泉市)

おやこ木工教室を開催しました。親子で力を合わせ、一生懸命丸太切りをしています。

4~5

特集

県公民館大会 事例発表Ⅰ Ⅱ Ⅲ 上越市、阿賀野市、新潟市

CONTENTS

- | | | |
|---|------------------|--|
| 2 | トピックス | 「にいがた生涯学習フォーラム2017」開催される |
| 3 | 視点
ひろば
掲示板 | 「友情の輪を広げて」 新潟県健民少年団連合会 会長 齋藤 敏郎
「理想のバッグ」 両津地区公民館講座 受講生 中川 佳香
「各地区代議員会、研修会の開催」 |
| 6 | 実践記録シリーズ | 「西新潟オープンカレッジ開塾」 新潟市小針青山公民館 |
| 7 | サークル交流
素顔拝見 | 「一枚の葉書に思いを込めて」おしゃべりで仲間作り(上越市) / 「花子(はなこ)と幸子(ゆきこ)」(湯沢町)
小林 歩さん(長岡市) / 野村 直美さん(加茂市) |
| 8 | お元気ですか
ネットワーク | 「元気です」 柏崎市・赤川 道夫さん |

▼TOPICS

「にいがた生涯学習フォーラム2017」開催される

「にいがた生涯フォーラム2017」が9月15日(金)・16日(土)に県立生涯学習推進センター(新潟市中央区女池南)で開催されました。総参加者は1,743人で終日賑わいました。来場者が多かった理由は、開催時期を例年の10月下旬から9月中旬に繰り上げたことや開催日を平日から金・土曜日開催にしたことなどがあげられます。台風が接近中でしたが、両日ともほぼ影響はなく天候に恵まれたイベントになりました。

〈1日目〉

1 いきいき県民カレッジ表彰式
受賞者総数は40名で、当日参加者4名でした。



県教育次長 石井 充氏から奨励賞が授与されました。

2 講演1 テーマ「地域を元気にするのは学びの力」



講師：伊藤聡子氏
(フリーアナウンサー)の熱のこもった講演。

〈2日目〉

参加22団体が様々な活動を紹介しました。初めて、屋外での活動も展開され賑わいました。写真で主な活動を紹介します。



昨年好評の起震車体験。
今年も行列ができました。



非常時必需品展示。
ボーイスカウト。



大シャボン玉。
新潟大学教育学部学生。

講演2「字ぼうよ 洗濯絵表示・案内図」(記号)日本規格協会
(講師：中久木隆二氏)



獅子舞。西白根神楽舞保存会。

講演3「続々見つかる(第二)の地球」候補(国立天文台)
(講師：渡部潤一氏)



その他の活動紹介や

体験活動の団体

活動紹介(新潟県健康少年団連合会)けん玉体験(日本けん玉協会新潟支部)紙芝居タイム(新潟ひょうしぎの会オセロに挑戦(日本オセロ連盟)アグリクラフト(にいがたアグリクラフト)作って揚げよう手作り風(南区白根大風合戦関係者)コマ回し・めんこ・お手玉・あやとり遊び(生涯学習協会)学習成果展示・即売(県立新発田農業高校、県立新潟商業高校)あそびの広



日本を代表する国際的天文学者の講演。
会場は天文ファンで満席の盛況になりました。



学習成果品展示・販売。
県立江南高等特別支援学校。



折り紙で遊ぼう。
日本折紙協会新潟支部。



初参加 健康少年団連合会。

場(新潟県子ども会育成連合会)小物作り体験&販売(ちくちく工房)参加団体は昨年とほぼ同数ながら、参加者数が増えました。開催時期や天候に恵まれた事もありましたがプログラムの企画が良かったのではないかと推察されます。参加者から「知らない人が多いのでは。もっと県民に広報などで知らせたい」という声も多くありました(聞き取り調査)。企画の多様性とあわせて、来年の大きな課題です。
(田原)



「理想のバッグ」

両津地区公民館講座
「初心者クラフトバンド教室」
受講生 中川 佳香



私は今年6月から初心者クラフトバンド講座を受講しています。クラフトバンドとは固い紙製のテープでバンドを編んでカゴなどに仕上げるものです。私は手芸が好きで、よく家で小物を作っています。この講座は、母が公民館のチラシで見つけてすめてくれました。

受講生は10人。子育てを終えた主婦の方が多く、私は唯一の高校生です。最初は人見知りのため、他の受講生の方とも、ぎこちない感じだったのですが、みなさん親切にしてくれて今ではすっかりうちとけています。

これまでに、小物を入れる小さなカゴやリースなどを作りました。同じ形のカゴを作っても、どの色のクラフトバンドを使うかで印象が変わります。全講座の最後にはバッグを作る予定です。毎回行くのが楽しみだった講座が終わるのは寂しいですが、今まで習った技術をフルに生かしてお気に入りのバッグを作りたいと思います。

視点



新潟県健民少年団連合会
会長 齋藤 敏郎

「友情の輪を広げて」

すこやかなたみをはぐくむとの趣旨で健民少年団が発足したのは66年前の横浜でした。当時全国市長会会長であった横浜市長の呼び掛けで、各地の社会教育課が事務局となり都市団が生まれ、日本健民少年団連合が結成されました。

その後、行政改革等の影響で加盟団は8都市団に減少し、新潟県は村上と新発田が活動を行っています。

県内の団員は小学4年生から高校生まで180名、指導員はOBや行政事務局を含め122名、合計302名が、野外活動等多様な体験活動を通して青少年の健全育成をしています。

県連合会事業として交歓大会と研修会を年度交互に実施しており、今年度は7月に村上団が主管となり、関川村鷹の巣キャンプ場で交歓大会を開催しました。

団員、指導員総勢101名のキャンプ交歓会を存分に楽しみ友情を育みました。

8月には代々木のオリンピック記念青少年センターで全国交歓大会が開催されましたので、参加団員はより強く友情が深まったことと思います。

全国に広がる友達の輪は加盟都市団が減少した現在も続いており、災害時救援や全国大会開催団への支援などに活かされています。

私自身団員時代に友達となり、既に解散した団の友人と交流が続いています。

私は昨年度より新発田市健民少年団の団長と県連合会の会長に就任しましたが、少年時代の思い出に満ちた豊かな体験と、遠方の友人指導員からの助言が、現在の私の活動を心から支えてくれています。

掲示板 HOT NEWS

1 中越地区公連第2回代議員会

(1) 日時 平成29年11月16日(木)
10:30 ~ 12:00

(2) 会場 さいわいプラザ(長岡市中央公民館)

2 下越地区公連第2回代議員会、 第2回下越地区公民館職員研修会

(1) 日時 平成29年11月9日(木)
9:30 ~ 16:15

各地区代議員会、研修会の開催

(2) 会場 新発田市生涯学習センター

<石崎 茂氏(加茂市)が受賞>

加茂市公民館須田分館長の石崎 茂氏が全国公民館連合会から永年勤続職員表彰を受賞しました。8月24日(木)群馬県前橋市で行われた全国大会、関プロ大会で賞状と記念品が授与されました。



特集

県公民館大会 事例発表ⅠⅡⅢ 上越市、阿賀野市、新潟市

事例発表Ⅰ 「地域の魅力拡大から公民館ができること」

上越市諏訪地区公民館
主事 西嶋 明子

1 「ちよつと世界に目を向けよう！～外国に親しもう～活動の様子」
地域の人材を活用するとともに、外国文化に触れてほしいという小学生の保護者からの要望を受けて、事業を計画しました。公民館の近くにお住まいの台湾出身の女性の方がおられるという話を公民館利用者からお聞きし、早速講師をお願いしました。子どもたちに台湾のことを教えてほしいとお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。当日は、台湾の気候や時差、台湾の遊び、民族衣装、食事の様子を紹介していただきました。また、台湾料理として餃子や春巻、から揚げの作り方を教えていただきました。参加した子どもたちは、「はじめて知ることばかりで、とても楽しかった」と満足していました。諏訪小学校以外の子どもたちの参加もあり、「最初は少しはづかしくて、あまりお友だちもいなかったけど、みんなと仲よくできてよかった」と子どもたち同士の交流も広がったようです。

2 「親子プログラミング教室活動の様子」
平成32年度から、小学校で必修となるプログラミング教育に先駆け、諏訪小学校のコンピュータ室を会場に、親子でプログラミング学習をする事業を計画しました。

プログラミング学習ソフト「スクラッチ」を活用し、子どもたちは頭を使いながら一生懸命取り組み、プログラミングに関心を持つことができました。

3 「節句料理づくりに活動の様子」

季節を感じることでできる料理教室を実施してほしいという地域の方の要望により、事業を計画しました。地区内で様々な野菜を栽培・加工している方に講師をお願いしました。1回目は、講師のご自宅にある大島桜の花や葉を塩漬けにしたものを使って、ホットプレートでできる校餅を作りました。2回目は、地区内で採った笹を利用して、ちまきの作り方を教えていただきました。もち米を入れてつくる三角ちまきと違い、粉を練って棒状に



丸めて笹に包むちまきを作りました。「笹の包み方やイグサの縛り方が難しかった」ようですが、手軽に作れる美味しい節句の団子作りを学習できたことにより、「家に帰ってからもうやってみたい」という声が多く聞かれました。

4 「浴衣着付け教室」活動の様子

開催時間を午後7時から8時半にしたことや、毎年8月上旬に開催される諏訪地区の夏祭りや浴衣着用を呼びかけたことにより、30代から50代の若い世代の方を中心に参加してもらったことができました。地域の美容室の方に講師をお願いし、丁寧に教えていただくことにより、参加者全員が自分で浴衣の着付けをできるようになりました。また、参加者同士が教えあう姿も見られました。「なかなか着る機会がない浴衣を自分で着ることができるようになり、大満足の事業だった」と、参加者にとって充実した事業となりました。

5 「地域をもっと知ろう！」

「諏訪地区文化財と環境衛生施設の見学」活動の様子

普段なかなか行くことができない、地域の施設を見学してみたいという地域の皆さんの要望により計画しました。クリーンセンターの見学では、ごみを分別することの大切さを学び、「普段のごみの出し方について考えさせられた」という感想が聞かれ、日常生活と地球環境への関心を高めることができました。

6 「一貫寺の森わくわくウォッチング」活動の様子

本事業は、平成26年度から継続して行っています。一貫寺の森は、地区内をまたがる飯田川のほとりにあり、面積約28ヘクタールにおよぶ自然林という重要な地域資源ですが、地域の大人にはあまり知られていないというのが現状です。小学生は、学校の授業で何度も訪れ、森の楽しさを味わっています。一貫寺の森をより多くの住民に知ってもらい、森に親しみ、森を保全し、よりよい森の活用ができることを願い、事業を計画しました。講師は、「日本野鳥の会」の会員であり子どもたちがお世話になっている中学校の先生にお願しました。

7 「炭で遊ぼう！～竹炭消臭グッズ作り」活動の様子

一貫寺の森にある炭焼き窯使って、「作った炭を生活に生かせる作品づくり」の事業を計画しました。一貫寺の森の炭焼き窯で



竹炭を作っている方に来ていただき、竹炭の切り方を教えていただきました。小学校PTAとの連携により、若い世代の保護者に参加してもらうことができました。また、地域の方にもチラシを配布したことにより、参加者による世代間交流を進めることができました。

事例発表Ⅱ 「人と地域をつなげる公民館活動を目指して」

阿賀野市安田公民館
主幹 田中 恵子

「まちづくり塾」

在地域で活躍している人は阿賀野市でもほんの一部の人で、自分の住んでいる地域に関心のある人が増えていきます。そんな現状を捉えて、家にいる方が家から一歩踏み出し、自分を再発見したり阿賀野市の隠れた歴史や食を学んだり、自分の周りで、どんな人がどんな活動をしているのかを知ることによって、自分の生活ライフを考えたり、人と人とが交流し、つながること、豊かなまちづくりの一助となることに期待し、4回シリーズの「まちづくり塾」を企画しました。阿賀野市（自分の住んでいるところ）に興味のある方や自分自身の生活を変えてみたい！と考えている方を対象に公募し定員20名のところ27名の応募がありました。

◆第1回「阿賀野市ぶらり探訪」

「広報あがの連載「ふるさと探訪」を巡る」
阿賀野市の歴史や伝説に触れて、ふるさとを再発見する。

文化行政係からのアドバイスもあり、阿賀野市の広報誌「広報あがの」に掲載している「ふるさと探訪」の地を巡りたいという声が多数聞かれるという事を受けて、折居の猫寺（岩村寺）、福永の諏訪神社を巡りました。

住職の樋口さんより岩村寺の縁起（猫寺の由来）を聞いたり、バスでの移動中に市芸芸員の解説で、車窓から見える地域の歴史や伝説を聞いたりしました。また、諏訪神社では奥の神社まで散策する人もおり、自分達の知らない阿賀野市の歴史の魅力を堪能しました。

◆第2回「阿賀野市食の体験」～阿賀野市の食について聞き、

阿賀野市の食材を使って健康に良い食事を体験しよう！
阿賀野市で採れる食材を使って食の体験をしたり、地産地消の話

を聞いたりして、地域で食に関わる活動をしている人たちを知り、阿賀野市(自分たちの地域)の食について関心を持ってもらうことを目的に開催しました。

農林課の協力を得て、農村地域生活アドバイザーさんを紹介していただき、その方々が作っている野菜を使い、一緒に健康に良い食事の調理実習を行い、農村地域生活アドバイザーさんの活動なども紹介しました。その後、今、地元で取り組んでいることと題してJA北蒲みなみ 営農課長から阿賀野市の食材を学校給食に取り入れるための苦労や地産地消が紹介されたマップについてのお話を聞きました。



農村地域生活アドバイザーの調理実習



JA北蒲みなみ 営農課長の話

◆第3回「見た目年齢マイナス5歳!若返り術を学ぶ」

～自分に似合うカラーや簡単な身だしなみを知って
実年齢マイナス5歳を目指す～

自分自身を振り返り、パーソナルカラーを知り、外観を若返らせることで心も華やかになり、出かけよう!周りに目を向けよう!という気持ちを持てるようになることを目的に開催しました。

はじめに受講生の中からモデルになってくれる人を選び、講師の先生から簡単なパーソナルカラーの診断をしてもらいました。似合う色を身につけることにより、モデルになった人の顔が明るく見えることに驚きを感じたり、マフラーなどの小物を襟元にアクセントとして使うテクニックを学んだり、髪形ひとつでも印象が変わることについて教えていただきました。

◆第4回「他地域の活動から学ぶ 今求められていること」

～自分の地域は……～

他地域の団体の活動の様子を聞いて、自分達の地域ではどんな活動を行っているだろうと振り返ってみたり、自分たちも活動してみよう!参加してみよう!と自分達の地域で自分達にできることは何か興味を持ってもらうことを目的に開催しました。

中島自主防災会、堀越シニア青年団の2つの地域の活動団体の話を聞きました。地域での団体としての活動を始めるきっかけやどんな活動を行っているかなど、普段活動をしている時のベストやのぼり旗を持ってきて見せてくださったり、活動で作った防災ずきんや活動をしている写真等を見せてもらい、話を聞かせてもらいました。

事例発表Ⅲ 「新潟市公民館のアクティブシニア支援事業」

～セカンドライフ 農業体験講座を中心に～

新潟市中地区公民館
館長 鷲尾 雄二

「セカンドライフ 農業体験講座」

(1) 開催の経緯

新潟市は全国でも指折りの農業生産額を誇っており、農業や農業関連産業をよりいっそう発展させていくため、国家戦略特区の指定を受けようとしていた。

この流れに乗って、市役所の各部門で農業振興に資する様々な取り組みを行うことになり、公民館でもシニア世代向けに農業体験講座を開催することになった。

目的は「主に退職後のシニア世代を対象に、家庭菜園等で活用できる農業体験を実施することにより、高齢者の生きがいづくり、仲間づくり、健康づくりを支援し、元気な高齢者の社会参加を促す」というもの。4館が、プランターで気軽に親しめるものから、プロの指導下、半年間野菜と格闘する本格的なもので、4つの講座を企画した。

(2) H27「初年度」

ア 中地区公民館は、新潟空港に程近い東区下山区に畑を借り、講座を開催した。

4～10月まで全6回で計画したが、野菜の植え付け時期の違いや生育状況、天候等により、結果的に11回開催することになった。講師は県農業大学の元教員や現役農家で野菜の出荷組合長をされている方など3名にお願いした。

イ 講座の内容

4月21日に公民館で開講。受講者の自己紹介や野菜の栽培法の講義の後、作付野菜をサツマイモとトマト、枝豆に決定した。

2回目以降、農地で実習を行った。実習初日、五月晴れのさわやかな風の中を、講師の指導で畝づくりやトマト苗の植え付けを行った。開催日が増えたが、受講者の意気は高く、順調に講座が進んでいった。

ウ 収穫・調理実習

トマトは当初、カラスの被害と少雨による尻腐れ病でほとんど収穫ができなかった。防鳥ネットを掛けた7月中旬以降、収穫できるようになり、苗を倒した9月半ばまでずっと収穫が続いた。枝豆は、7月末頃から早生品種が収穫できるようになり、中早生の「茶豆」はちょうどお盆直前の収穫となった。サツマイモは、生育状況を見るため時々試し掘りをしていたが、9月末に全員で一斉に掘り出した。均等に分け、1人当たり15kgくらいを分配できた。

10月中旬、料理研究家から指導を受け、収穫したサツマイモを使って調理実習を行った。サツマイモとイカの煮物やサツマイ



モとりんごのサラダなど5品を作ったが、いずれもおいしく、満足、満腹の半日となった。秋作として追加した青首大根は、必要な時に1〜2本ずつ抜いていくやり方で、10月下旬から12月まで新鮮なものを味わった。

エ 参加者の評価

講座の最終回、受講者にアンケートを行った。講座全体について、とてもよかった79%、まあまあよかった21%となった。5段階評価の最上位「とてもよかった」の比率が高く、十分満足していたことが分かった。

また「気づき」に関する質問で、「新しく分かった」や「学んだこと」を生かしたい」との回答も高率となった。

- ①印象に残った話があった
そう思う: 89%
- ②新しく分かったことがあった
そう思う: 89%
- ③学んだことを今後活かしたいと思った
そう思う: 89%
- ④学んだテーマについてもっと知りたいと思った
そう思う: 84%

(3) H28「2年目」

2年目は、新たに募集した21名で4月にスタートした。畑に直植えした枝豆の種をハトに食べられた前年の反省を生かし、枝豆は屋内で苗を育ててから畑に移植した。トマトには早々に防鳥ネットを張った。天候にも恵まれトマトの尻腐れも少なく、収穫も順調に推移した。サツマイモも前年に近い収穫があった。

受講者アンケートでも、評価5が81%、評価4が19%と高い評価をいただいた。「気づき」についても、4質問の平均で92%となり、十分な成果を得られたと考えている。

またH27年度の講座のフォローアップとして、OB会と名付け、希望を募り農地の一部を耕してもらった。自分で責任を持って耕作し、経費も全額自腹である。9人が応募し、多くの野菜(16種類、1人平均4.5種類)を育ててくれた。

(4) H29「3年目」

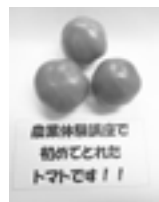
3年目は、新たに募集した19名でスタート。OB会はH27とH28の受講者から募って18人となった。現在、10000㎡の畑のほとんどを使い、たくさん野菜がすくすくと育っている。

(5) セカンドライフ 農業体験講座の総括

この講座は、農業の大変さと農業の喜びを同時に学べる講座である。生き物が相手、自然が相手、机上の計画通りにはいかないこと、トマト等の作物は自然が相手、農地に行く必要がありとても手間暇がかかる、ということ等を学んだ。

作物を育てるには、適期や肥料、病害虫対策など、作物毎に様々な知識や技術が必要だということ当たり前のことに、改めて気付かされた。農家ともなれば、経営のノウハウも必要になる。3人のプロから農業の話を聴いて、大変なためになった。

受講者も収穫の喜びと共に、農業の大変さを肌で感じた講座であった。

農業体験講座で
初めてとれた
トマトです!!

235

「西新潟オープン カレッジ開塾」

新潟市小針青山公民館

実践記録シリーズ

【背景】

小針青山公民館は、西区(人口約157千人)の4館ある地区公民館のひとつとして、区域の東部地域を主な担当エリアとしています。当館においても今後の事業展開をしていくうえで、高齢者の居場所づくりが大きな課題となっていました。平成27年度に公民館主催で試験的に高齢者向け講座を3カ月連続で開催したところ、各講座に80人以上の参加者があり、学習意欲の高い地域であることが認識されました。また、アンケートで「有料化した場合の参加費は？」という問いに、回答した人のほとんどが500円(ワンコイン)としていました。

【運営委員会設立】

このことを受けて、当館の活動協力員会議において「高齢者の居場所づくり」として西新潟オープンカレッジの設立を提案しました。活動協力員の方々から賛成していただき、その後、活動協力員が中心になって公民館で活動している人達や関係者へ声掛けをしました。そして、多くの皆さんから設立趣旨に賛同していただき、平成28年4月に西新潟オープンカレッジ運営委員会を立ち上げることができました。



西新潟オープンカレッジ全体会議

【いよいよ開塾】

運営委員会では検討を重ね、高齢者を対象とした教養学部と地域学部、小学生を対象とした子わく学部(3つの学部を設置することになりました。教養学部はちよつと知的で楽しい時間を過ごせる講座、地域学部は地元の歴史や地域を学べる講座、そして公民館事業から移行した子わく学部は、これまでどおり体験や交流を中心とした講座を企画し、運営することになりました。

平成28年8月31日に受講生(塾生)募集と宣伝を兼ねた開塾記念公開講演会が、前新潟県知事で新潟国際情報大学学長の平山征夫氏をお迎えし、盛大に執り行われました。

いよいよ9月より各講座がスタートし、有料にもかかわらず大勢の人たちに参加していただき、好評のうちに教養学部7回、地域学部6回の講座を無事に終えることができました。このことは運営スタッフの自信になり、次年度の快調なスタートにも繋がりました。各講座においては、多くのボランティアの協力をお願いいただき、感謝申し上げます。また、懸案でありました収支決算についても繰越金を残せることができてほっとしています。



開塾記念公開講演会

【これから】

また、開塾して間もないですが、いくつか課題に触れることにします。

①運営委員会の構成メンバーをどのように確保していくか。②ベテラン講師の減少と高齢化による講座開催への影響が懸念される。③講座内容にもよるが、参加者減少による赤字決算への不安がある。

これらのことを意識しながら西新潟オープンカレッジ運営委員会の活動を支援していきたい、ほかの事業とともに高齢者が毎週「きょうよつ、きょうい」(今日用がある、今日行くところがある)の小針青山公民館でありたいと思います。(河原)



地域学部「この地域の成り立ち」



教養学部「楽しく懐かしいみんなの唄」



「一枚の葉書に思いを込めて」
おしゃべりで仲間作り

リリースクラブ

一枚の葉書に思いを込めて作品が出来上がるのが楽しみで、1月の第1木曜日になると誰に送るかと思いをこめて、公民館に向かっています。

職場を退職後、家庭に入り、田んぼと畑で野菜作りをしていたものの、何か趣味をと思い公民館の「絵手紙講座」を受講しました。

3回の講座を終え、受講者の中でこれからやるつよとの声があり、自主学習に移行「リリースクラブ」として平成26年に7名で活動を始めました。

最初の頃は小さな葉書に何の絵をかいているのか、色合いがはつきりしないなど四苦八苦の絵手紙ばかりでした。活動を重ねることに、筆使いをきちんとして色を考え思い



どおりの絵手紙が出来ました。今では筆は止まっても口だけは止まらない仲間づくりができ、ついつい話が弾み、時間の立つのも忘れてしまつてしまいます。自分で作った絵手紙を妹に送るととても喜んでくれました。最近では友人にも送っています。

今度は誰に送ろうかと考えながら絵手紙を書くことと仲間と会えることを楽しみにしています。

上越市・リリースクラブ

宮澤百合子 記

花子(はなこ)と 幸子(ゆきこ)

よきこ湯沢 雪華

9年前、職場の先輩に誘われ「よきこ」を始めました。3歳の息子と一緒に入会。当時は大人11名、子ども6名で和気あいあいとした雰囲気の中で始めました。サークル名の「雪華」は結成当初の会長(花子)と

副会長(幸子)から取ったとのこと。さて、私達親子の初舞台は「敬老会」、いるだけでいいからと3歳の息子も舞台へ。ほとんど踊らないのに、なんとおひねりが…。今でも語られる懐かしいエピソードです。現在の会員は大人14名、子ども18名、練習は毎週火曜日夜7時半からです。9年前は研修室でしたが、人数が増えることに広い部屋になつていき、現在は公民館のホールを借りて、元氣いっぱい踊っています。活動は芸能協会のイベントやお祭りなどで踊ります。外で踊る気持ち良さを感じ、1人前では踊れませんので練習だけで…と言っていた人が今ではセンター争いをしています。(笑)他には小学校の指導、老人介護施設の慰問など。間もなく町の芸能発表会、これからも仲間と元気に踊ります。



湯沢町・よきこ湯沢 雪華
林 智子 記

長岡市中央公民館

館長補佐 小林 歩さん



小林さんは館長補佐でありながら係長も兼務しているため、その業務は幅広く業務量も多いのですが、こまめにアドバイスをくれたり、気軽に相談に応じてくれ、とても頼りになります。人柄は温厚で、いつも笑顔でその場を和ませて私たちを癒してくれる存在でもあります。

今よりもう少し若い頃はよく体を動かしていたようですが、今は子どものスポーツ少年団のサポート役に徹するよきパパです。週末のスポ少の活動により、月曜は少し疲れが見えるときもありますが、毎日欠かさない「ヤクルト」で元気をチャージしています。

今は仕事と家庭でなかなか自分の時間が持てないこともあり、趣味らしい趣味はない状況ですが、多くの方がいきいきと活動している公民館での勤務を活かして、小林さんがさらに笑顔になれるそんな活動を見つけてほしいな、と思っています。

(中央公民館 菅 多恵子 記)

素顔拝見

加茂市公民館

主任 野村 直美さん



公民館に来て14年目になる野村直美さんをご紹介します。

公民館では女性セミナー、自然ふれあい教室、子ども工作教室など、主に女性や子どもを対象とした講座の運営や館内の庶務・経理など多くの業務を毎日てきぱきこなしています。

多忙な中でも笑顔を絶やさず、利用者の声を大切にして気配りを忘れない対応から、公民館利用者から絶大な信頼を得ています。

プライベートでは、休日に県内の美術館、博物館、おいしいお店を巡って、心身をリフレッシュさせるとともに、そこで蓄えた豊富な知識とアイデアを事業に取り入れるなど、前向きで真摯に仕事に取り組む姿勢は、他の職員の模範となっています。

(加茂市公民館 和田 正利 記)

ネットワーク



昨年の元気アップ交流集会・小千谷 ゲスト:松井周之輔氏(小千谷市教育長)

「集い・学び・語り合う」 「社会教育関係者元気UP 交流集会」開催!!

新潟県生涯学習協会では、昨年度に続き、「社会教育関係者元気アップ交流集会」を開催します。この集会は公民館職員などの社会教育関係者が集い、学び、語り合い、社会教育の仕事や活動に取り組む元気をつけても

らうものです。今年は、11月25日(土)に柏崎市谷根集落にある古民家で開催します。当日は、この古民家の所有者である日本社会教育学会会長・長澤成次先生(元千葉大学教育学部教授)や千葉県の社会教育職員が、新潟県内の社会教育関係者と語り合うために駆けつけてくれます!よりよい社会教育実践を創造していくためにぜひご参加ください。詳しい情報と申し込みは、新潟県生涯学習協会へ。

(参加費 1,000円)

【申込み・問い合わせ】
新潟県生涯学習協会
TEL・FAX
025-266-1120
E-mail: syakyo56@tel.ocn.ne.jp



豊富な実践事例と講話
白戸 洋教授

「中越地区公民館職員研修会」

中越地区研修会が9月12日(火)に小千谷市「サンラックおぢや」(小千谷市総合福祉センター)で開催されました。指導者に松本大学教授・白戸 洋氏を迎え、「学び・つながり・創る」拠点としての公民館の役割を研修テーマに、講話と演習の研修を行いました。参加者は69名でした。

お・元・気・で・す・か

赤川 道夫
(柏崎市)



市役所を退職後、4年間地元のコミュニティセンターに勤め、地域活動の一端を経験して昨年より65歳で退職した。「小人間居して不善をなす」(年金生活者として漫然と過ごしてはいけない。錆びついた体を動かすため、まず地元コミセンのサークルに所属してラジボール卓球を始めた。中学卒業以来50年ぶりにラケットを握ったが、週

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

2、3回の活動日には、ベテランのメンバーからいいように振り回され、かなりの運動量だ。

中央公民館では、幅広い世代を対象にした「エイジレス講座」の中から山歩き入門講座を受講。春・秋に安全な軽登山を体験している。中高年に限らず、比較的若い方の参加もあり、なかなか楽しい。

「フラタモリ」は好きな番組

で、特に有名な観光地でなくとも、地形・地勢のなりたちを学びながらのまち歩きは刺激的だ。私の住む地域は、日本海に面した砂丘の上に形成された古い街。坂道や小路も多く、数年前から行政との協働でマップ作りやボランティアガイド養成が行われている。これに参加して歩くと、見慣れた場所が違った景色に見える。ガイド見習い中だが、学んだことを人の前で説明できれば、「アウトプット」としてよい機会にもなると思う。

100年先の日本のために

豊かな水を育み国土を守る森林は、「緑の社会資本」であり、地球温暖化の防止にも大きな役割を果たしています。私たちは、その恩恵を後世の人々が享受できるよう、長期的視点に立った森林づくりを推進しています。

新潟県市町村林政振興協議会
会長(糸魚川市長) 米田 徹

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

最近のニュースで注目は「ビール」に認知症予防効果が、あることをキリンの研究所が発表したこと。国際学会で発表したところを見るとどうやら本当らしい。2年前には鯨

肉が記憶力低下を抑え、内臓脂肪減少効果があると昭和大学で確認されているので、今夏は鯨汁にビールで認知症予防と妻にリクエスト。いわく「あなたの場合はもう手遅れ」と冷たく却下。

(田原)